谷渕さん、女性が職場で輝き続けるために何が必要でしょうか

株式会社パワーネット
代表取締役 **谷渕 陽子**さん

キャリアコンサルタント。自社においても女性が働き続けられる仕組みの構築に取り組み、会社は平成25年度ワーク・ライフ・バランス推進企業商工労働部長賞、平成26年度同知事賞を受賞。

企業から求められる人、財を

元県議員の谷渕さんがITサポート会社を起業したのは約20年前。「ITの普及が社会のあり方を変える」と予感してのことでした。

当時、新しい技術に対応しようとする社会のニーズは大きく、各種団体からセミナー依頼などの受注が殺到します。しかし技術の普及が急速に進むにつれて、売上は減少。IT技術に習熟した人材派遣へと業態を切り替えましたが、規制緩和やリーマンショックによる企業の雇用環境悪化により、再び試練を迎えます。

「どうすれば『パワーネットの紹介する人材が欲しい』と言ってもらえる？」職員全員で考え続けました。

答えは求職者たちにありました。ITに強いパワーネットは事務職への派遣が9割を占めています。その多くは、土日祝日が休み。子育て中の女性が子どもと休日が同じ職を求めて、同社を訪れていました。「この女性たちを育成して、職場から求められるようにすればいい！」

谷渕さんはインターンシップや相談会、セミナー開催など、女性と仕事を結びつける取り組みを相次いで打ち出しました。

「事務未経験でも、ブランクが長くても仕事に就ける」。評判はママ友の口コミで広がり、紹介者が紹介者を呼ぶ好循環となっています。

不安を意欲に変換

パワーネットの取り組みのひとつに「おしごと相談会」があります。求職者の相談に乗りながら、その人を知り、最適な仕事を紹介するものですが、働く意欲を醸成する場でもあるそうです。

「子どもの発熱に、鍵っ子の心配。母親にとって子どもが最優先事項なのは当然です。しかし親の手が借りられなくても、地方自治体や地域による子育て支援という手もあります。使えるものはどんどん使っていい。そうまでしても、『働こう』という意欲を高めてもらうのです」

就労に不安を持つ女性に、適切な情報を提供しながら、一緒に解決策を考えます。さらに働くためのスキル向上をバックアップ。次第に就職し活躍する女性たちが増え、その姿に谷渕さん自身も励まされているといいます。

会社と個人、双方が理解し合える環境に

「家事も立派なスキル」という谷渕さん。女性ならではの強みを理解し、それを活かす役割を与えることが上司の役割だといいます。

現在、パワーネットの職員は全員女性。彼女たちが能力を最大限発揮できるよう、自社の就労環境にも心を配っています。仕事を平準化させ、日頃から共有することで業務の引継ぎをスムーズにし、とっさの休みにも職員同士でカバーできる体制としました。その結果、生産性が高まり、有給休暇の消化率は向上、残業時間は減少したそうです。

「妊娠、出産、育児というライフイベントのたびに、女性は仕事面に影響を及ぼす多くの壁に出会います。彼女たちが働き続けるためには、会社が家族ぐるみで面倒を見る覚悟と柔軟性が必要。一方で雇ってもらう立場からも、自分がどうあるべきかを示さなければなりません。企業と女性と、お互いが理解し合って働ける環境づくりが求められているのです」

谷渕さん自身も働く女性。会社を興し努力も苦労もした結果、部下を輝かせることが会社の成長につながると実感していました。

「女性リーダーは、後輩に『今の自分にもできる』という意識を持ってもらうことが必要です。人の3倍働くモーレツ管理職のもとでは、次の人材は育たないでしょう。今はワーク・ライフの『ライフ』に重きを置く時代。それを先輩が示し、社会で実績をつくっていくことが責務だと考えています」

谷渕さんの唱える、仕事で発揮できる女性の強み

❶決まった時間に仕事をやり終える段取り力

日頃から時間の制約の中で家事をこなしているため、段取り力が鍛えられている。

❷整理整頓力

家事は食器や衣服を「使って洗って定位置に戻す」の繰り返し。仕事にロスを生まない美しい職場をキープできる。

❸複数の仕事を並行して行う処理能力

子どもたちの世話と、掃除・洗濯・食事の支度を同時進行。女性の脳は複数の仕事を同時に処理し慣れている。